

改訂第2版

待望のオールカラー版で新登場！

運動療法のための 機能解剖学的 触診技術

2冊そろって
大好評
発売中!!

改訂第2版
運動療法のための
機能解剖学的
触診技術

下肢
体幹

改訂第2版
運動療法のための
機能解剖学的
触診技術

上肢

監修 青木 隆明

岐阜大学医学部附属病院整形外科・リハビリテーション部

執筆 林 典雄

中部学院大学リハビリテーション学部理学療法学科教授

絶大な支持を得た初版に、**超音波解剖**など最新の知見を反映し、ボリューム大幅増！
フルカラーの写真とイラストで、より見やすく・わかりやすくなった触診技術の決定版！

すべての写真を刷新して、フルカラー化！

肌の微妙な凹凸がハッキリ見えるので、触診するポジションや
浮き上がる筋や靱帯まで、よりわかりやすくなりました。

イラスト・本文も、オールカラー化！
最新知見を反映して、解説もさらに詳しくなりました！

新たに**超音波画像を追加**して、深層の構造までも詳説。
機能解剖が立体的に理解できます。

写真の補足として、吹き出し形式で
イラストや写真を追加！

重要なポイントは**吹き出し形式で、写真のアップやイラストを併載**。
細かいところや見えない部分まで詳しく解説しています。

上肢

発売中

目次

I 触診の基本

基本的立位肢位と解剖学的立位肢位／運動の面・軸・方向／姿勢の表し方／触診を行う際の指のあて方

II 上肢の骨

肩甲骨 scapula／鎖骨 clavicle／上腕骨 humerus／橈骨 radius／尺骨 ulnar／手根骨と指骨 carpal bone & phalangeal bone

III 上肢の靱帯

肩関節複合体に関連する靱帯／肘関節複合体に関連する靱帯

IV 上肢の筋

肩甲上腕関節に関わる筋／肩甲胸郭関節に関わる筋／肘関節に関わる筋／手関節および手指に関わる筋

目次

I 下肢の骨

骨盤 pelvis／大腿骨 femur／膝関節周辺 around the knee joint／足関節および足部周辺 around the ankle joint & foot

II 下肢の靱帯

スカルパ三角に関連する靱帯／膝関節に関連する靱帯／足関節に関連する靱帯

III 下肢の筋

股関節に関わる筋／膝関節に関わる筋／足関節および足部に関わる筋

IV 体幹・胸郭・脊柱関連組織

胸郭に関連する緒組織／脊柱に関連する緒組織

発売中

■ 定価 5,985円 (5%税込) B5判・344頁・オールカラー・写真640点、イラスト360点 ISBN978-4-7583-1137-3

運動器リハビリテーションに欠かせない “機能解剖の知識”と“触診技術”を 豊富なイラストと写真で完全マスター

機能解剖に基づいて
触診技術を解説した
PT・OT必携の書！

全ての写真を刷新して
全面オールカラー化！

肌の微妙な凹凸がハッキリ見える！
触診のポイントがわかりやすい！

2 膝関節に関わる筋

大腿二頭筋長頭 biceps femoris long head 大腿二頭筋短頭 biceps femoris short head

解剖学的特徴

- **大腿二頭筋長頭**
〔起始〕坐骨結節 〔停止〕膝関節
〔支配神経〕坐骨神経幹（脊髄神経第5～S2）
- **大腿二頭筋短頭**
〔起始〕大腿骨粗隆外側部 〔停止〕長頭筋を介し膝関節
〔支配神経〕坐骨神経幹（脊髄神経第5～S2）
- 大腿二頭筋短頭は、長頭の停止部に対し深層から表側に合流し、長頭筋を介して膝関節に力を伝達する。
- 大腿二頭筋短頭は、その表筋を長頭によりほぼ完全に覆われており、体表からは長頭の筋腹が主として観察される。

機能的特徴

- 大腿二頭筋長頭は股関節伸張ならびに膝関節屈曲に作用する。
- 大腿二頭筋短頭は「膝を安定した状態」を維持し、骨盤を保持させる。
- 大腿二頭筋短頭は膝関節を屈曲する。また長頭とともに下腿を外転させる。
- 大腿二頭筋の停止の一部は、膝関節外側の筋腹へ合流し、外側部の筋活動に影響を与える。
- 大腿二頭筋の停止の一部は、外側部筋腹帯を内・外側より覆いながら膝関節へと向かい、間接的に膝関節の内反・外転を制御する。

臨床との接点

- 大腿二頭筋長頭は内側ハムストリングスとともに、屈張の制限因子となる。
- 膝関節屈曲時において膝関節の屈曲を必要とする場合、大腿二頭筋短頭が作用する。
- 膝関節屈曲時で大腿二頭筋に強力な収縮力が作用した場合や、下腿への強力な内転力が作用した場合、大腿二頭筋を介した膝関節屈曲が生じる。
- 膝関節90°屈曲位において大腿二頭筋と膝関節帯の両方は、外側半月板の後方の圧縮をみせるポイントである。
- 下腿表反側の歩行において、外側部筋腹帯がみられる場合、アラメントに問題があれば大腿二頭筋の筋力が低下する。

関連する疾患

- tight hamstrings、膝関節屈曲困難、大腿二頭筋断裂・肉離れ、膝関節脱臼、下腿切断、外側半月板損傷、など。

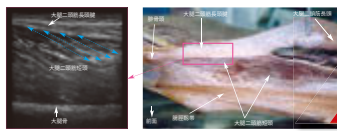
2-2-1 大腿二頭筋の走行

大腿二頭筋長頭は、坐骨結節に起始し膝関節に停止する。大腿二頭筋短頭は、大腿骨粗隆外側部に起始し、長頭筋を介し膝関節に停止する。両筋とも膝関節屈曲・下腿の外転に働き、長頭は膝関節の伸張にも関与する。短頭はそれとは逆に膝関節に合流しており、体表からは短頭が主として観察される。



2-2-2 大腿二頭筋長頭と短頭との関係

両筋は大腿骨外側より内側へ向かって、ピストンで大腿二頭筋長頭を持ち上げると、短頭は膝関節へと向かう。長頭筋に対し深層から半円状に合流し、短頭筋は長頭の筋を覆っている。つまり、短頭の筋腹は長頭筋を介してはじめて膝関節に伝達される。



2-2-3 膝関節屈曲による

大腿二頭筋は膝関節が伸展位から屈曲位へと変化する際に、膝関節を屈曲させる作用は短頭に依存することとなる。膝関節屈曲位では、長頭は遠近な伸張が得られ、短頭は近接した膝関節屈曲に作用する。短頭は近接したため、短頭筋の筋腹は短くなる。

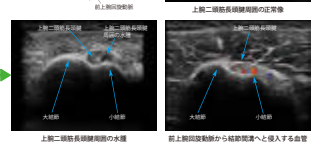
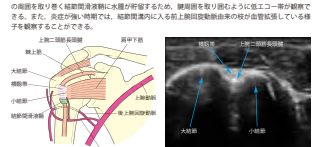


各項目の冒頭では、触診に必要な知識を簡条書きでまとめて整理。

超音波画像を併用して
深層の構造も詳しく解説。

Skill Up

大腿二頭筋長頭筋にみられる特徴的な超音波画像
大腿二頭筋長頭筋は、膝関節を屈曲する際に長頭筋の筋腹が短くなる。膝関節を屈曲する際に、長頭筋の筋腹が短くなる。膝関節を屈曲する際に、長頭筋の筋腹が短くなる。膝関節を屈曲する際に、長頭筋の筋腹が短くなる。

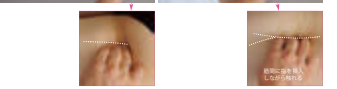


コラム Skill Up

徒手検査や疾患の知識など、臨床にも役立つ知識を適宜掲載。

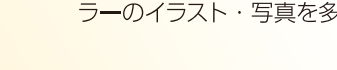
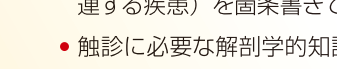
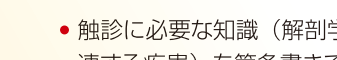
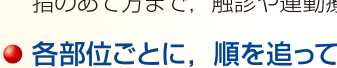
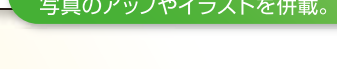
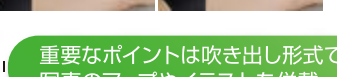
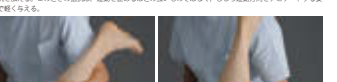
2-2-4 半腱筋の触診

半腱筋は膝関節が伸展位で、そのまゝ半腱筋の内側部に沿って坐骨結節まで下れていく（浅層）。半腱筋の筋腹は近位へ向かうと大腿二頭筋の筋腹が横切られてくるので、大腿二頭筋長頭の筋腹に手を滑り込ませて触診していく（深層）。



2-2-5 半腱筋の触診

半腱筋の触診は、膝関節を屈曲位とし膝関節が伸展位に置かれた状態で触診する。あらかじめ半腱筋はトレスしておくと触診の誤りやかりやすい。股関節屈曲位に膝関節を屈曲させ、大腿二頭筋長頭に平行に触診を加える。このときの触診は、運動を止めるとこの筋のみではなく、むしろ運動方向をナビゲートする要領で触診を加える。



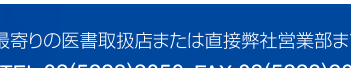
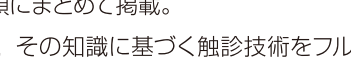
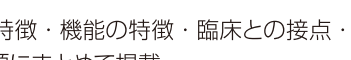
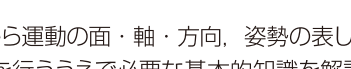
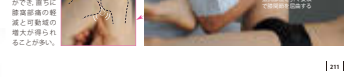
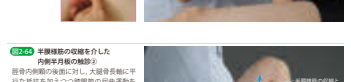
2-2-6 半腱筋の触診

半腱筋は膝関節が伸展位で、そのまゝ半腱筋の内側部に沿って坐骨結節まで下れていく（浅層）。半腱筋の筋腹は近位へ向かうと大腿二頭筋の筋腹が横切られてくるので、大腿二頭筋長頭の筋腹に手を滑り込ませて触診していく（深層）。



2-2-7 半腱筋の触診

半腱筋の触診は、膝関節を屈曲位とし膝関節が伸展位に置かれた状態で触診する。あらかじめ半腱筋はトレスしておくと触診の誤りやかりやすい。股関節屈曲位に膝関節を屈曲させ、大腿二頭筋長頭に平行に触診を加える。このときの触診は、運動を止めるとこの筋のみではなく、むしろ運動方向をナビゲートする要領で触診を加える。



※ご注文、お問い合わせは最寄りの医書取扱店または直接弊社営業部まで。